

ペルーにおける短期熱帯医学研修の経験

岩田 健太郎

亀田総合病院 感染症科

熱帯医学の勉強には、多方面からのアプローチが考えられる。その中でも現場での疾患に直に触れる経験、実習が特に重要であることには異論がないだろう。数多い熱帯医学の研修コースにおいて、現地での臨床研修を体験できるものは意外に少ない。その中で、アラバマ大学と提携した南米ペルーの「Gorgas course」は特に有名である。このGorgas courseを提供している Instituto de Medicina Tropical "Alexander Von Humbolt" (IMT) Universidad Peruana Cayetano Heredia (UPCH)にて、演者は1ヵ月の臨床研修を行う機会を得たので、今シンポジウムにて紹介する。南米に位置する細長い国であるペルーでは、海岸沿いで起きるコレラから、ジャングル地帯で起きる黄熱病やマラリアなど、多様な疾患が体験できる。南米特有のシャーガス病、ペルーでは珍しくない狂犬病や皮膚リウマチ、そしてたくさんのエイズ患者。外来、そして入院患者に対する臨床研修は、臨床医としての熱帯医学の研鑽には極めて有益であり、これからも多くの熱帯医、感染症医がチャレンジする意義があろう。

---

Short clinical clerkship on tropical medicine in Peru

KENTARO IWATA

Division of Infectious Diseases, Kameda Medical Center, Chiba, Japan